

腫瘍マーカー検査を受けられる皆さまへ

(目的・限界・結果の解釈について、ご理解いただきたいこと)

腫瘍マーカーとは、がんがあると血液中で増えることがある物質です。がん細胞や周囲組織から産生されますが、**数値だけで「がんの有無」を確定することはできません。**

検査の目的

- ・ **診断の補助**：画像検査や内視鏡、診察所見と合わせて、がんの存在を推測する参考情報にします。
- ・ **治療効果判定**：治療前後での変化を追い、効果の有無を評価します。
- ・ **再発・転移の早期発見**：手術や治療後の経過観察に用います。

検査の限界

- ・ **正常値（異常なし）でも、がんが存在することがあります（偽陰性）。**
- ・ **がん以外でも上がる**ことがあります（炎症・感染、良性腫瘍、肝腎機能異常、喫煙、妊娠・月経など）。
- ・ **一度の数値では判断困難**なことが多く、経時的な変化が重要です。
- ・ **マーカーごとに得意・不得意が異なる**ため、目的に応じて選択します。

以上の理由から、**単独での腫瘍マーカー検査は「がんのスクリーニング（早期発見）」における有用性は限定的です。**画像検査・内視鏡・診察・採血などを組み合わせ、**総合的に判断**します。

結果の解釈とその説明

- ・ 結果は**担当医が総合的に評価**し、健診ないし外来でご説明します。
- ・ 数値が高い場合でも**直ちに「がん」とは限りません。**追加検査（画像・内視鏡・再検）や**一定期間の経過観察**をご提案することがあります。
- ・ 数値が低くても**完全に安心とは言い切れません。**症状や画像所見を踏まえて必要な検査を検討します。

2025.10